

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(4)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(4)—

1. 始めに

前報(3)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、弦楽四重奏です。

TELEFUNKEN(キングレコード) K17C-8320

モーツアルト 弦楽四重奏曲第 18 番イ長調

弦楽四重奏曲第 19 番ハ長調<不協和音>

アルバンベルグ弦楽四重奏団

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

TELEFUNKEN(キングレコード)盤ということで、DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

LINN LP-12 の再生では、弦楽四重奏曲第 19 番はお馴染みの曲で、アルバンベルグ弦楽四重奏団らしく切れ味よく緊張感のある演奏です。

ThorensTD124 の再生では、解像度は LINN LP-12 に及びませんが、こちらもアルバンベルグ弦楽四重奏団らしく艶の乗った生き生きとした緊張感のある演奏です。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorensTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、アルバンベルグ弦楽四重奏団らしく緊張感のある演奏が、LINN LP-12 と ThorensTD124 それぞれの表情でなされています。

以上